

学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式（小学校用）

都道府県名	三重県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	東員町立笹尾西小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	障害児学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	0	6	9
児童数	18	25	26	30	25	31	0	155	

研究の概要

1. 研究主題

子どもたちが、わかる喜びを感じ、自ら、さらに学ぼうとする力をつけていく「学びの場」を創造しよう。
～確かな学力を身につけ、主体的に学ぶ算数の少人数授業づくり～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

1年生国語(1)・・・文字指導の基礎を大事に、一人ひとりの指導にあたるため。
2年生国語(1)・・・読みや漢字習得等の基礎学力を身につけるため。
2年生算数(1)・・・九九等の基礎的な学習内容の定着を図るため。
3・4年生算数(4・5)・・・児童の理解の状況に差が出やすい教科及び学年であるため。
5・6年生算数(4・4)・・・学習内容の理解にかなりの差があるので、低学力児童の基礎的学力の底上げをめざすため。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 算数での基礎的な学習内容の定着と低学力児の学力の底上げをめざして、新たな授業方法(少人数授業等)を試み、一人一人に確かな学力をつける。子ども同士の関わりの中で学び合える教室を創り出す。</p> <p>研究の見通し ・初めは、TT指導で子どもづかみをし、少人数授業へと進める。 ・1学期は、主に1つの学年で、TTの授業あるいは少人数授業の提案をし、研修会で深める。 ・夏休みを中心に、先進校や研究会等に積極的に参加し、理解を深める。 ・2学期には、実際に少人数授業を実践し、どの子も主体的に学ぶ授業を探る。</p> <p>研究の内容・方法 ・少人数指導についての研修会、TT指導から少人数授業への移行 ・少人数指導におけるグループ分けを探り、どの子にもわかる喜びがあり、学ぶ意欲を高める少人数授業をめざした授業づくり・・・6月研修 ・先進校から学ぶ、研究会に参加する、講師に学ぶ会を実施 ・少人数授業の指導案づくりを中心とした授業研究・・・11月研修 ・毎週火曜日の朝に「ぐんぐんタイム」を設定し、基礎的な学習内容の繰り返し学習を行う。 ・放課後に「ぐんぐん教室」を開き、補習教材や発展教材等で自主的に学習できる場を設ける。 ・毎学期、学期末の算数テストと算数の授業についてのアンケートを実施し、基礎学習の習得状況及び授業づくりの検証をする。 ・年度末には学力テストを実施し、本校の算数の学力の検証を行う。</p>
--------	---

平成 16 年度	<p>テーマ 少人数授業の良さを生かし、積極的に自分の考えを発表し合い、子ども同士の意見が絡み合いながら問題解決を図る授業づくり。 積極的に少人数指導の工夫を見だし、学年毎の授業交流からお互いの指導の良さ・工夫を学び合い高まり合う研修を進める。</p> <p>研究の見通し ・担任と少人数担当との打合せ時間の保障を、体制の中から見だし、学年部を中心に少人数授業を積極的に進める。6月及び11月の集中研修で校内授業公開を行い、授業づくりの検証を行う。 ・3学期の外部への授業公開をめざして、まとめ、資料づくり等にあたる。</p> <p>研究の内容・方法 ・16年度の前フロンティア委員会を中心に検討していく。</p>
----------------	---

* 平成15年度からの新規校については、平成15、16年度の計画について記入すること。

(3) 研究推進体制

<p>少人数指導に、少人数指導教師及び専科教師をあて、1・2年担当（TT）、3・4年担当、5・6年担当とし、担任の空き時間に打合せの時間を設ける。毎月1回前フロンティア委員会を行い、全体研修会の計画や運営を行う。</p> <p>前フロンティア委員会（校長、教頭、研修委員、少人数教師）</p> <p>全体研修会</p> <p>学年部（低学年部・高学年部）</p>

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

<p>本年度は、学力向上をめざし、算数を中心に少人数指導についての研修を繰り返し実践してきた。成果を明らかにするためには、1学期、2学期とも全学年で自作のまとめテスト及び児童対象のアンケートを実施して、検証を行ってきた。その結果、まとめテストでは、1学期の学校平均が85点であったところ、2学期は90点にまで向上した。更に、6年生では、低学力だった児童の点数が次のように上がった。</p> <p>Y児（48点 70点）、T児（32点 78点）、K児（4点 44点）</p> <p>また、授業アンケートでは、「算数の授業は楽しいですか」という項目については、1学期も2学期も殆ど変わらず「楽しい」が50%、「ふつう」が48%と高い割合を示している。次の「授業は分かりますか」という項目では、「よく分かる」が2学期52.3%（1学期、39.6%）となり、1学期から10%以上上がっている。「まあまあ分かる」はどちらも約半数である。また、「先生が2人いて良かったことはありますか」という項目については良かったと判断する子が、1学期・2学期ともほぼ70%に近いという結果であった。</p> <p>まとめテストでは、学習内容の違いもあって一概には向上したと言い切れないが、子どもたちが「毎日楽しく算数ができるようになった。」「意見がすごく言えるようになった。」「いっぱい発表ができてうれしい」等と感想を述べていて、学習に向かう姿勢（学習力）は確かに向上していると感じている。</p>
--

2. 今後の課題

今年度は、初めての少人数指導の研究の年であったため、習熟度別グループに分けるといふ是非論が壁となつてしまい、思うように進まなかつた感があるが、1年かけて論議してきたことで、少人数のメリットを生かした指導の工夫を、お互いに積極的に実践し、お互いの実践を認め、学び合つていこうという理解を図ることができた。

また、児童のアンケートから「間違えたりすることを気にせず発表できますか」といふ項目について、「できない」といふ児童が16%いる。このことから少人数の良さである「自分の思いを積極的に発表する子」を育て、子ども同士の意見が絡み合いながら問題解決を図る授業づくりを進めていきたい。

学力等把握のための学校としての取組

算数の学期末のまとめテスト（自作）

学期毎の学習内容の習得度をみるために、各学期末に全学年で実施。

児童の算数の授業への意欲が高まっていくことをねらつて、「算数の授業についてのアンケート」を、上記のまとめテストと同時に実施している。

本校の算数の学力の状況をつかむため、学年度末に、CRT学力テスト（図書文化）を実施している。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・本年度の研究のまとめとして、研究冊子を作成。
- ・都市の教育研究の場等で冊子を配布し、研究成果の普及に努める。
- ・2004年度3学期（2学期は校舎の大改築があるため）に、研究成果普及のための公開授業を予定している。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無